

(一社) 横浜港振興協会「横浜港出前講座」

その 13, 14, 15

名誉会員・海事補佐人 田中善治



平成 26 年 7 月 10 日 (木)
阿王ヶ台自治会
(横浜市金沢区釜利谷東)

当日 11:30 京急線金沢文庫駅で、自家用車で講演用機材を持参して来られた横振協の寺島氏と待ち合わせて、会場の阿王ヶ台自治会館に向かった。この自治会では自宅に引き込みがちになる高齢者を対象に毎月一回、300 円の会費で食事会を開催しており、食後外部の者による講演の後デザートで締めくくるということであった。その事情を知らなかったのも、自治会館に着いてみると多くのご婦人方が食事の準備に大わらわだっただけにはびっくりした。幹事の宮原さん始め男性会員も集まって 12:30 手作りカレーの食事会が始まった。

食事後、全員で講演会場に模様替えし開演となった。

女性 26 名、男性 5 名、計 31 名で、圧倒的に女性が多かったのも、食事中宮原氏と講演の内容について話合った。いずれにしても海、船、船員を理解していただくにはやはり膨大な輸出入量の話から始めなければならなかった。頂いた講演時間は 60 分だったが、事前に幹事の詳細を知っていたものの、多くの質問にお応えしているうちに 45 分もオーバーしてしまった。宮原氏のおっしゃるとおりもっと男性に参加して欲しいと思った。

平成 26 年 7 月 25 日 (金)
横浜赤レンガ倉庫 夏の臨海学校 2014
(横浜市中区新港)

赤レンガ倉庫 1 号館を管理運営している(公・財)横浜市芸術文化振興財団は、初めて企画した「夏の臨海学校」を開催することになり、横振協をつうじて講演の要請があった。

開催の前に鈴木副館長と打ち合わせしたが、主催者側も初めてのことで手探りの状態だった。この企画のメインイベントは 1 号館の 2 階に複数のブースを設け 25 (金) 26 (土) 27 (日) の 3 日間、講座、アニメーション映画、ワークショップ(プロ芸人による紙切り、バブルバー製造体験、身近な小物を使って作るファンシープランツ、100 年前の赤レンガ倉庫の瓦のカケラを使った小物作り等々)などである。

私の持ち時間は 11:00 ~、14:00 ~ 夫々 1 時間であった。ブースは通路側の仕切りがなく最大 30 名の椅子席で、通りがかった人が自由に着席できるようにになっていた。講演前にどのような方が、何名着席されているのか全くわからずに登壇するのは初めての経験だった。

午前の部は事前に申し込まれていて埼玉から来られたという、私と同じ年頃のグループ 11 名(男 4、女 7)及び途中で参加してくれた数名だった。同年輩という親近感もあり始めから質問や意見が飛び出して和気藹々のうちに終了した。終了後のご感想に、海に囲まれた日本には海運が不可欠であるということが解った。しかし、日常それに関する情報に接することがないのはどうゆうことか?と憤慨されていた。

午後の部は何人かの出入りはあったが計 12 名(男子小学生とその母 2 組、男 1、女 7)だった。その中にプロのイラストレーターがおられ、終了後、海や船の話をもっと聞きたいし色々な船の絵を画きたいのでアドバイスして欲しいとの話があった。又、小学生からはパナマ運河についてもっと知りたいとの感想をいただいた。

平成 26 年 8 月 20 日 (水)
鶴見区民地域活動協議会
潮田公園コミュニティハウス
(横浜市鶴見区向井町)

快晴猛暑の当日 13:15、京急鶴見駅で横振協の寺島氏と待ち合わせて徒歩 15 分、潮田公園内のコミュニティハウスに向かった。

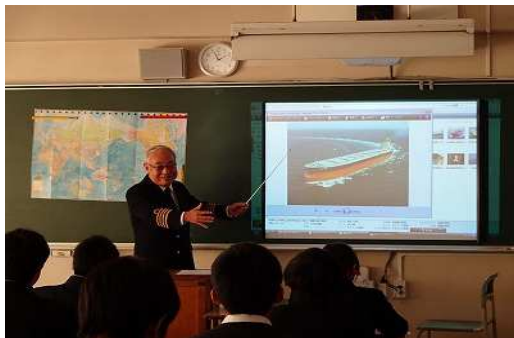
主催者は横振協を通じて講師はもちろん日時と場所を変えながら連続 6 回の講演会を企画しており、今回はその第 1 回目ということだった。初回の評判次第で 2 回目以降の出席者の多寡が左右されるとの主催者のコメントを胸に気を引き締めて臨んだ。

いただいた時間は 90 分だが、その場の雰囲気でも多少の延長は OK との了解のもとにスタートした。海運なくして我が国は一日たりとも生きていけない、すなわち「船が日本を支えている」ということにウエイトをおいて話を進めた。70 分を過ぎた頃から質問や意見をお受けした。専用船で積地に向かう場合空艙だと思うがその時の問題点は？日本はしばらく造船世界一を維持したが今はどうなっているか？VLCC から原油を陸上のタンクに揚荷するにはそのポンプはどこに設置されていて、容量はいくらか？海賊に遭ったことがあるか？キーマン方式以外に外国船に日本人船員は乗っているのか？等々、質問は多岐にわたり盛り上がった。結局 20 分オーバーの 110 分で終了した。

出席者 18 名（男 12 名、女 6 名）はもっと色々質問してみたような様子だった。

平成 26 年 1 月 2 日（土）
東京都立小山台高等学校
「社会人によるキャリアガイダンス」
（その 7）

本校での講演は平成 20 年 1 月に初めて以来今回で 7 回目である。この講座は「NPO 法人キャリアのきっかけ（代表 川上氏）」が企画されたもので、今回は私の他に弁護士磯崎奈保子氏 三菱重工業（株）大浜伸幸氏 東芝メディカルシステ



ムズ（株）大崎ひろき氏 による四講座が 10:30~11:30 の間、それぞれの教室に分かれて同時に開催された。

受講生は男子 15 名、女子 8 名、計 23 名。

私の講座のテーマは前回と同じ「船が日本を支えている」とし、資源に乏しい島国日本の輸出入事情からスタートした。前もって送付しておいた資料 6 枚、映像による船舶の紹介、持参した世界地図等を使って話を進めた。

全員の感想文をいただきましたが紙面の都合でその抜粋を紹介します。

* 船に関することだけかと思っていたら、政治への目線や経済状況も知ることができ、有意義な時間でした。世の中は繋がっていると改めて実感でき、これからは物事に対する視野の広さや視点を変えていけると思います。

* 「船の話」から、日本が抱える外交問題の背景を深く知ることができました。3・11 後エネルギーが必要になった日本が強気になれない状態にあり、領土問題の悪化も外国に頼る日本だからこそと強く感じました。今まであまり興味がなかった「国際」という学問に強い興味が湧きました。

* マイルやトン数のような豆知識の話も面白かったです。船乗りに必要なことは普段の生活に通じている事、健康、協調性。私はバスケットボールをやっているのもそれらがよくわかります。

* 「船が日本を支えている」ことがよくわかりました。これだけ輸入に頼っていると海外との関係がわるくなると日本は大変な状況になってしまうでしょう。島国なのに日本の船が思ったより少なくてびっくりしました。またフィリピン人の船員が多いのも意外でした。

